

# 宮津地区将来構想【概要版】

## 1 目的

宮津地区は、上天草物産館さんぱーる（物産館）、スパ・タラソ天草（温泉センター）、天草四郎ミュージアム（資料館）、大矢野総合スポーツ公園（スポーツ施設）等の公共施設が集積し、多くの利用者が集う地区であることから、観光の目的地としての魅力をさらに高めるとともに、持続可能なまちづくりを推進していくための将来ビジョンとして、宮津地区将来構想を策定するもの。

## 2 市関連計画への位置付け

- 上天草市第2次総合計画（後期基本計画R1～R5）
  - 観光の目的地としての魅力を高めるとともに、熊本天草幹線道路整備を見据えたまちづくりを推進するため、宮津地区将来構想を策定することを明記。
- 上天草市グランドデザイン
  - 上天草物産館さんぱーるやスパ・タラソ天草等を中心とした観光拠点化を図るエリアとして位置付け。

## 3 対象エリア



### 市施設 12施設

- ①カントリーパーク花海好
- ②スパ・タラソ天草
- ③宮津海遊公園
- ④大矢野老人福祉センター
- ⑤大矢野陶芸館
- ⑥大矢野農山村広場公園
- ⑦上天草物産館さんぱーる
- ⑧上天草物産館さんぱーるバス停
- ⑨天草四郎公園
- ⑩天草四郎ミュージアム
- ⑪大矢野総合スポーツ公園
- ⑫天草広域連合北消防署訓練棟予定地

### 県等所有施設 4施設

- ⑬上天草警察署
- ⑭水産研究センター
- ⑮里海づくり協会
- ⑯天草広域連合北消防署

## 4 宮津地区の現状と課題

### 〔現状と課題〕

- 観光の拠点化を図る中で観光施設とそうでない施設が混在している。  
（（仮称）新大矢野図書館、大矢野老人福祉センター、上天草警察署、天草広域連合北消防署等）
- 合併前の大矢野町時代から限られた土地の中で個別に施設が整備されており、隣接する施設との関連性や連携が取れていない。
- イベント時以外の公園の利用率が悪い。（大矢野農山村公園、宮津海遊公園、天草四郎公園）
- 緊急車両動線、生活動線、観光動線が重複しており、イベント時や渋滞時は、緊急車両の出動に支障をきたす恐れがある。
- 建設予定の（仮称）新大矢野図書館と上天草物産館さんぱーるが国道266号で分断されており、回遊性に課題がある。

## 5 宮津地区将来構想策定に向けた検討経過

### 〔ワーキンググループ〕

○構成員：庁内関係課（7人）＋上天草高校生（8人）

回	開催日	内容
第1回	R2. 7. 14	事業概要説明・オリエンテーション
第2回	R2. 7. 28	ワークショップ 「10年後、20年後の宮津地区はこうになって欲しい」
第3回	R2. 8. 11	ワークショップ 「10年後、20年後の宮津地区はこうになって欲しい」 （未来の暮らし編）
第4回	R2. 8. 25	ワークショップ 「10年後、20年後の宮津地区はこうになって欲しい」 （まちの将来像編）

### 〔宮津地区将来構想策定検討委員会〕

○構成員：地元区長及び商工観光事業者等（17人）

回	開催日	内容
第1回	R2. 9. 30	宮津地区の現状と課題、在り方の検討
第2回	R2. 10. 20	将来構想の骨子案及びゾーニングの検討
第3回	R2. 11. 24	将来構想素案及びイメージパースの検討
パブリックコメント	R2. 12月10日～ R3. 1月22日まで	パブリックコメント（市民意見募集）の実施
第4回	書面会議により実施	将来構想案の最終確認

## 6 基本方針及び将来像

### 基本方針

### 「日常づかいの観光」の推進

- 新型コロナウイルス後の社会は、都市部から地方への動きが活発化。  
(リモートによる仕事の可能性が認識される)
- 熊本天草幹線道路の開通により、熊本市内から日常生活の延長で訪れる日帰り(日常づかい)観光客が増加する。
- 市内観光拠点との差別化(宮津地区:健康・教育・歴史関連の施設が集積)  
(前島地区:デザイン性、リゾート感)

### 将来像

### シーサイドリビング

- 海辺に面した宮津地区全体を一つの施設(家)と捉え、公園を自宅のリビングに見立てることで、リビングを中心にくつろぎ、人との交流の場を促進し、快適な生活をおくるための動線を確保する等、各公共施設がリビング(公園)を中心に機能するエリアを目指す。

## 7 将来像の実現に向けた取組み(案)

### (1) 動線の整備

- ① 消防署から国道266号へのスムーズな出動を可能とする緊急車両動線の検討
- ② (仮称)新大矢野図書館と上天草物産館さんばーを繋ぐ歩道橋等の整備

### (2) 公園・広場を中心とした施設の再編

- ① 各施設を再編(ゾーニングの変更)し、回遊動線の確保と施設間の連携強化

### (3) 施設機能の強化・充実

- ① 観光の起爆剤としての図書館(観光客も呼び込める施設)
- ② 多世代交流機能(施設の複合化を図り、地元も観光客も使える施設)

### (4) デザインガイドラインの策定

- ① 統一した景観づくり(サイン、ランドスケープ、施設)の指針となるデザインガイドラインの策定

※新たな施設の建設(複合化)及び各公共施設の管理運営に当たっては、**公民連携制度(PFI等)**の導入を検討することで、事業コストの削減と質の高い公共サービスの提供が可能となる。

## 8 イメージパース

公園を中心とした機能配置  
海への軸線とアクティビティ  
新たな交流が生ま出す賑わい  
国道266号沿線の新たな顔づくり  
一体的な整備に伴う駐車場の集約

- 上天草物産館さんばーを中心とした一体的整備及び管理
- 夕日が見える広場、海のステージ、屋上リビング
- 多世代交流施設
- 陸橋、緑道
- 立体駐車場



※パースは現段階におけるイメージです

